

Title	アーカイブと表現
Sub Title	
Author	上崎, 千(Uesaki, Sen)
Publisher	慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究センター
Publication year	2014
Jtitle	慶應義塾大学DMC紀要 (DMC Review Keio University). Vol.1, No.1 (2014. 3) ,p.14- 17
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特集：DMC研究センターシンポジウム：第3回 デジタル知の文化的普及と深化に向けて： コンテンツとコンテキストの統合的アーカイヴィングに向けて
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO32002001-00000001-0014">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO32002001-00000001-0014</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# アーカイブと表現

上崎 千 (慶應義塾大学アート・センター)

上崎千と申します、よろしくお願いたします。三田の慶應義塾大学アート・センターというところでアーカイブの担当所員をしております。普段は三田におりまして、主に戦後日本の前衛芸術に関連する様々な資料体の物理的編成やインベントリーの作成、利用者対応といった仕事をしております。つまりアーカイブの設計、構築、運営が私の通常業務です。一方で私は戦後アメリカの美術批評の歴史の研究をしておりまして、芸術とアーカイブ、芸術作品と、芸術理論とアーカイブあるいは「アーカイブと表現」……といったことについて日々考えております。今日はみなさんからせつかく非常に高度にテクノロジーなお話をお繋ぎいただいたのに、私のところで突然、ちょっと抽象的なお話になってしまうと思います。すみません。とにかく、「アーカイブとは何か」……私の問いはこの、非常に基本的な問いなんですね。ちなみに私にとって「アーカイブ」というものは、それほど自明のものではないんです。

というのも、さきほどNHKのことが話題に上がっていましたが……たとえば「日曜美術館」、この「美術館」が、いわゆる美術館じゃないことは、みなさんもよくご存知だと思います。「日曜美術館はどこですか」なんて渋谷か代々木公園あたりで人に尋ねたら、運が良ければ（運が良いのかどうか分かりませんが）、NHK本社の方角を教えてもらえるかもしれませんけれど（笑）。いずれにしても、「日曜美術館」という美術館はないんです。周知の通り、あれはメタファーなんですね。ある番組のことを「美術館」と名指しているわけです。さて、一方で「NHK アーカイブス」、こ

ちらはどうでしょう。いわゆるアーカイブなのか、アーカイブじゃないのか。はい、どうですか……もう途端に「アーカイブ」という語の指し示す対象が曖昧になってきませんか。「NHK アーカイブス」もまた番組の名前なのですが、あのような番組の企画が可能となっている条件として、NHKには然るべき、「アーカイブ」と名指されるべきなんらかの施設が、物理的なレベルであれ比喩的なレベルであれ、存在しているということになります。ところで、あの番組は要するに、過去にNHKで放送された番組を再放送する番組よね。でも「NHK 再放送ズ」とは呼ばずに（ああ「再放送ス」か）、「アーカイブス」という語を持ち出した途端に何か……魔法がかかるといいますか、何か特別な、高尚な感じがするといいますか。とにかく、このマジック・ワードは何なんだろうなどと不思議に思いつつ、あるいはそんなことは全くお構いなしに、私たちは今日、いろいろなレベルでこの「アーカイブ」という語を使っているわけです。「デジタルアーカイブ」という言葉、結局はこれもメタファーだって、ご存じじゃない方、案外多いかもしれません。つまり、デジタルな媒材をもって、いわゆるアーカイブ的なものを模倣する。アーカイブ的なものに擬態する。あるいはアーカイブ的なものとの間に類似を生み出す……さて、そとそろ、「いわゆるアーカイブ」と言ったときに、もはや何を指しているのか分からなくなってきましたね。ちなみに「デジタル」ではないアーカイブであっても、インベントリー作成のために当然パソコンを使ったりするわけですから、まったくデジタルの要素を排したアーカイブというものがあるかということ、そんなことはないわけ

<b>アーカイブと表現</b>	上崎千 (2007年11月2日)
<b>ペイフメント——録音記録と印刷術 (印刷された空間 printed matter) *</b>	
<b>Index of Printed Matter (印刷術) のあるものとしての本質がなに、——エド・サトウ *</b>	
<b>要旨</b>   二冊の複製物の書影。これら二冊の印刷術で表現されている複製に異なる本画一冊の仕立というプロセスは、なによりも尤も、両者の外観が見せるこのおからさな複製によって展開付けられている。ただしこの複製で扱われるセナイーフは、単に両者が扱っているということよりも、むしろこのような事柄なり同題なりによって産出される、ある特定の複製、複製あるいは複製への関心によって買われているのである。この複製のセナイーフを文字通り置くその関心は、ある種の映画 (インターフェイス) を介してもたらされるのだが、その映画は本質がこれから扱おうとしている画であると同時に、いずれ本質をそのセナイーフとして扱うことになる画でもあるのだ。また、本質で〈印刷術〉という語が繰り返される度、スキャット (Robert Rauschenberg, 1973) の次の言葉が全頁に置かれている。「私にとって言語とは物—同題 matter であり、それはどのような概念とも異なる——それはつまり「印刷術—印刷された空間 printed matter」という語に見られるような物—同題なのである。」	

サンセット・ストリップ―二冊目はメシエール (Ed. Mésière, 1957) の *Henry Kissinger als Sommerkamp* (1960年) である。一方の専頁のイメージの系列 (約 $1/3$ ) が、互いに逆さ並の向きで置かえられている。この一方の系列と並走するように、専頁のフレーム等ではなく被写体等に、番地を示す数字あるいは通りの名前をボツ文字列が、それぞれの向きで置かえられている。この印刷術で実現されているシークエンスの質は、異質が予め定められている「すべて $1/3$ 」の要素の、ほぼ無条件な (取捨選択を許容しない) 並列によって特徴付けられる。つまり、この印刷術の設計 (レイアウト) には、しばしば (鑑賞) という目的の下で行われる選択 (セレクション) の概念とは、凡そ異なっている。選択を友人に求め、ラエスト・ハリウッド、サンセット大通りの一画、道標「サンセット・ストリップ」をゆっくりと通過するメシエールは、彼の1950年式フォードの車庫から、この全景約 $1/3$ マイルの通りに面した側道を歩くと撮影していった。この印刷術の版面を構成する各々のイメージは、置が替がによって仕立てられた側道、張り合わされた既製的な原紙 (定規紙) であり、当然、一張された一つの塊めではない。ましてや、一つの定点を軸として全景 (パノラマ) 的に見られるような、ムーブ状の装置でもない。そのつどほぼ正面で撮影されるその側道は各々のフレームの背後に、各々の興行、各々の視点を抱えているのである。この一方の側道は、サンセット・ストリップを道から道まで移動するフォードの車庫―約 $1/3$ マイルの番地の側道 (プラットフォーム)―に右側から送り込まれ左側へと送り出されるイメージの連続体であり、「次から次へと  $= \text{ding-dong-dong-dong}$ 」方向を連続して得られるそのつどのイメージ、そのつどのフレームの集合体である。どちらの系列にも方向性が取り込んでいる以上、両者の撮影時に、メシエールのフォードはこの通りを少なくとも一往復はしなくてはならない。そうだとすれば、反転して並走するこれら一方の側道は、互いにシークエンスの進行方向が異なる。つまりこの印刷術は、習熟を一定する側道どころか、そこを走行する車の両側を左右同時に通り過ぎる監視しなさいのである。シークエンスの両側は、メシエールにとって (印刷される側) そのものである。この印刷術の版面―版面を構成する各通りの名前が統合される度比、二つのシークエンスの無機質な同期の具合を確かめることができる。メシエールのレイアウトは専ら、この二つのシークエンスの同期を媒介する地取り (レイアウト) のプロセスとして進行されている。そして、そのような地取りを可能化している領域、(印刷される側) の中央を番地に置き、シークエンス方向が異なる一方のイメージの同期を媒介するこの空白の領域が、「サンセット・ストリップ」に似て中央分離帯を形成している。この空白領域の領域が、この印刷術の版面―版面中央に占めている面積の過剰さについて思考すること―この思考は、またもや今日 (アーカイヴ) と呼んであるものについて思考すること (あるいは歴史的に (アーカイヴ) という思考) との間に、ある種のアナロジーを築く。

2. 番地の置換の質が、附せずしてこの側道状の本の形を複製している。方向性を定める、あるいは方向性を定めるに準ずる自乗車のうち割合は、フレーム間の集合位置に差し替わったものに準ずるが制約されている。専らこの一方のイメージの系列は、この印刷術がどのように作られているのかを知る手掛かりで置かれている。2. 番地の置換でメシエールが見せる冗長さも、非常に興味深い。反動的なこのメシエールのファナーは、一連の被写体の中でもとりわけ長く、習熟中のフレームの置が替がによって再構築されている。距離、角度あるいは画面といった要素のギャップで、そもそも完全にフィットしなさいという側面フレーム同士、それらが平べったりに張り合わされ、幸うじて適合性を保っているのである。真は、このメシエールのファナーが、そのような手置きのフィルター越しに見せているこの読み具合、この集合 (読解) の特徴は、(印刷される側) の版面に置かえられた一方のイメージの系列全体、そのシークエンス全体の質を部分的に覆写する。サンセット・ストリップは、真に反動的な側道ではなく、誤中かに能行しているのだ。真に反動的な側道でこのメシエールのファナーが能行して見えるのは、車道のカーブによって、つまり、メシエールを乗せたフォードの軌道がこの被写体の前で張き置かれたことによって構築された効果であり、この印刷術がサンセット・ストリップの版面を真に反動的に張き置いたことで生じた効果である。ところで、この印刷術が持つ映画のフィルムのような外観、フィルム・ストリップとの類似は、そもそもこの「フィルム」という語が持っている「覆皮」あるいは「覆い皮膜」といった意味を介してさらに強調される。メシエールが「すべて車道から能行し立ち並び、ファナーの背後には走るでなにもなにかのような能行の平面  $= \text{film}$ 」の系列」と形容したL.A.の側道―カメラによって切り出され、再び撮影され、もはや全く厚みを持たないその一方の皮膚状の側道は、側道状に切り出され、再び撮影され、「もはやファナーでしかなく」のである。印刷術の版面としてメシエールのこの被写体をFライヴを取り立てているのは、L.A.という都市全体の持つ「一面性  $= \text{flatness}$ 」に他ならない。

側道の中道通り | 3で二冊目は、木村荘八 (1957-1960年) の著作『銀座八丁』 (東洋堂版、1957年) の複製として出版された『アルバム - 銀座八丁』である。再び、「次から次へと」張り合わされたイメージの二系列が反転され、真に反動的な側道状の一方性が、1957年の印刷術の版面に再構築されている。セチーフとなる側道は、京橋と新橋の間を通過し、銀座の丁目から丁目までを貫く中央通り (銀座通り) である。素材となる中央通り沿いの側道の専頁は、1957年の2月から翌年の春にかけて「出来れば毎日天候、同じ時刻を巡りて」撮影されたという (鈴木芳一撮影) 2. 番地の「サンセット・ストリップ」が印刷―再構築される一年前、『銀座八丁』は銀座の真中かな目抜き通りを、まさにその手掛で、(印刷される側) として構築し直していったのである。東4丁目の側道に占める銀座側道 (銀座側道) 共産党行進隊支隊のビルの表面が、この本の側道状の形を複製する。その右側の空地には、1957年のハリウッド映画『聖火 (The Flame)』の番地が立ち、この映画が1957年夏にジョックス社のシネマスコープ作品 (画面比率が $1/3$ 以上の横長の映画) であることを宣告している。誤中かに能行するサンセット・ストリップとは異なり、そもそも真に反動的なこの中央通りは、『銀座八丁』の鑑賞者たちに、より巧妙なイメージ操作という問題をなえた。側道フレーム同士の比較を合わせるため、歩道の置が替が置かれた、アスファルトは改めて黒色で塗り込められ (再び撮影)、置が替がに能行する各々のギャップはそのつど、被写体として置かえられている。歩道の置が替が置かれたアスファルトは改めて黒色で塗り込められ (再び撮影)、置が替がに能行する各々のギャップはそのつど、被写体として置かえられている。歩道の置が替が置かれたアスファルトは改めて黒色で塗り込められ (再び撮影)、置が替がに能行する各々のギャップはそのつど、被写体として置かえられている。歩道の置が替が置かれたアスファルトは改めて黒色で塗り込められ (再び撮影)、置が替がに能行する各々のギャップはそのつど、被写体として置かえられている。

『銀座八丁』の版面―版面に能行してさらに特筆すべき側道は、複製本文によって配置 (レイアウト) された数字、すなわち

各面層のテナントの表現である。空白の分離帯にそれぞれの向きで描かれた、それらの文字列によって試みられているのは、表現要素のイメージが見せる不穏性を時間を由來事の単位で分割（レイアウト）し直す作業である。最下層から、大正10年2月（複製前）、昭和4年2月（複製後）、昭和7年7月（複製前）、昭和20年2月（複製後）と、層分のテナントの名が、層分の文字列の増減として示されている。佇まいとしての表現のイメージからは墨写（レンダリング）された歴史—出来事としての層層が、文字列による層層での要素として置かれていられるのである。さらに木村は、この印刷物の断面には墨写された出来事についてこう語っている。「これを墨写する期間に幸ひ此の大通りに火事などの災災が無くして来た。當時はわれわれの「銀座」はこの姿である。しかし「火災」は大通りの帯にはちよ／＼／＼がもつたので、その模様、別「銀座現勢図」掲りの小高【本郷】君は損失賠償の苦悶をにじみかつかつた。」創造も人並み、造り直しも、表から磨り込まれたように見える向陽車も、中継層という地点からは不揃いな階層も（造りは現形に要した時間的経過を密かに伝えている）、さらに、塗り直された色の空と、その空に電線が伸びたまま、あるいは電線の復元を本層に分解するそれぞれの階層。そこから垣間見える風景さえも——とにかくすべての被写体が、モノクロームの写真的表面で面一化されており、さらに印刷面の原理によって平均化されている。層々分離として階層状に折り畳まれ、改めて展開された銀座の「この姿」は、あたかも向陽の音響のように、響きに厚みを持たない虚構であり、銀座の層層をかつた次の層々として再現するメタファナーである。

一つ目の断面—階層の断面を通して形成された同心（同心の階層列の境）が、二つ目の断面—階層を貫いている同心との間で相互に乗り入れを始める。当然、サンセット・ストラップと銀座の中央通りは実際には繋がっていないのだから、この相互乗り入れを可能化しているのは、断面—階層のイメージの系列の在り方というよりは、むしろこれらの断面—階層を貫く中央分離帯の在り方である。これら二層の印刷物が空かれた二層の空白の帯は、互いによく似ているのだ。ここで改めて、両者の間の類似ではなく、これらの〈印刷物—印刷された問題〉によって産出される特殊な類似、類似あるいは距離について問うことで、木村が意識にも触れているあの（その、そしてこの）断面の存在が明らかになるだろう。果たせば、これら二つの印刷物の上で刻き出しにしているこの断面を〈アーカイブ〉と呼んでいるのだ。

断面—一方は人影もゆる、匿名向でいささか変異した「サンセット・ストラップ」と、他方、ところどころ人影みで賑わう新築時としての「銀座八丁」——両者の断面—階層を貫いている二層の中央分離帯がよく似ていることは、これら二層の階層を貫く二層の印刷物が、互いにお互いさまに似ているというこの考察の主要点をより多層なものとしている。そして、各々の分離帯が模倣する対象は、誰れもなく、各々の表現のプラットフォームとしての階層層層なのである。なぜ印刷物に携えられた空白の領域が、階層層層の複製となりうるのか。白い紙の面がアスファルト製の面としてどのように振る舞うのか、どのように階層層層を高めていくのか。それは階層に、これらの印刷物が試みられている。紙の階層をそのまま階層として扱う要素作用、つまり、グラフィックの操作よりもむしろ紙そのものの物理的な性質に準拠した要素作用が、階層（ベイズメント）という作業を模倣しているからである。イメージを伴わないこの分離帯によって、断面と階層の断面が、同一問題としてマークされているのである。

この「地上」という名の要素全体を貫いているより高次の同心が、新たに〈印刷物—印刷された問題〉の断面としてこの小冊子の断面を構築し直す契機に、再び、あの中央分離帯が空かれる。その（そして、この）分離帯の質は、取りも直さずこの要素自体の〈地上〉としての質であり、それは、展がされているすべての作品群、階層層が各々のモチーフとの間で層層—交差を繰り返す、イメージを超えた要素作用の断面なのである。

図1-6-1のデキストは、東京国立近代美術館ギャラリーに収められたコレクショナルな複製「地上（On the Road）」（2004年11月）のあの小冊子に収録された図表、若干の修正・加工されたものである。①「John Deane, "Constructing "Wings Over the Road", *Journal of Architectural Education*, 2007, 2, 31-32. ② "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ③ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ④ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑤ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑥ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑦ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑧ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑨ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑩ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑪ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑫ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑬ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑭ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑮ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑯ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑰ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑱ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑲ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑳ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉑ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉒ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉓ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉔ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉕ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉖ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉗ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉘ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉙ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉚ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉛ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉜ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉝ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉞ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉟ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊱ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊲ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊳ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊴ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊵ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊶ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊷ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊸ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊹ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊺ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊻ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊼ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊽ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊾ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊿ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ① "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ② "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ③ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ④ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑤ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑥ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑦ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑧ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑨ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑩ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑪ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑫ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑬ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑭ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑮ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑯ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑰ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑱ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑲ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ⑳ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉑ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉒ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉓ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉔ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉕ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉖ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉗ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉘ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉙ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉚ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉛ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉜ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉝ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉞ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㉟ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊱ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊲ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊳ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊴ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊵ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊶ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊷ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊸ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊹ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊺ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊻ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊼ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊽ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊾ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32. ㊿ "My sense of language is that the writer and the writer is... " "Journal of Architectural Education", 2007, 2, 31-32.

です。まあ、物理的な「もの」との接点を一切排除して、デジタル・コンテンツでしかないものの束を限定的に「デジタルアーカイブ」と呼ぼうというのなら、ある程度、ほんの住み分け程度には「アーカイブ」と「デジタルアーカイブ」を差異化できるのかもしれませんが。

私が注意を促したいのは、とりわけこのような……つまり個々のイメージのレベルではなく、集合的なイメージの結合力あるいはイメージの凝集性みたいなものを可能にしている……つまり、Every Building on the Sunset Strip や『銀座八丁』の表現の強度にかか

わっている、この「地」の部分です。路面であると同時に紙面であるようなこの「地」のことです。寸断されて、繋ぎ合わされて、印刷物として再び「舗装」されて、蛇腹状に折りたたまれて、再び展開されたこの「中央分離帯」……私があえて「中央分離帯」と呼んでいる、この白い帯状の部分です。この「分離帯」の質、この素地の肌理みたいなものについて考えることと、アーカイブの界面、インターフェイスについて考えることにあいだに、類推思考といいますか、ある種のアナロジーを結ばせる。これが私なりの、「アーカイブとは何か」という問いへのアプローチの実例です。

いずれにしても、こういったものがアーカイブについて考えるためのモデルになると確信しつつ、一方で強調しておきたいことの一つとして、「コンテンツ」についての議論があります。あるいは「文脈」すなわち「コンテクスト」について。今日のシンポジウムのテーマにも、「コンテクスト」と「コンテンツ」という2つのキーワードが対置されていますね。「コンテンツ・デザイン」だとか「コンテンツ産業」だとか、そういう、語彙それ自体としては非常に空虚な領域が一方であり、そのような領域に対して、テクノロジカルなアプローチがあると。これをもう少し噛み砕いて言ってみると、「コンテンツ」に関する議論がある一方で、「コンテナ」についての議論あるいは課題がある、という話なんですね。要するに、「内容」に対して「容器」があるということです。コンテンツ云々という問題以上に、コンテナのフォーメーションをどうデザインするのかという話が、テクノロジカルな課題として、私たちの目の前に広がっているわけです。コンテンツが面白いとか、面白くないとか、そういうレベルの議論をしても埒が開かないということです。

そこで、インターフェイスの問題です。「コンテンツ」と「コンテナ」、今日の場合でいうと「コンテンツ」と「コンテクスト」の界面です。たとえばこの『銀座八丁』は、この銀座の目抜き通りの背後で発生するいろいろな出来事ファサードとして、「歴史のファサード」として機能しているわけです。今日はこの『アルバム・銀座八丁』だけをご紹介していますが、この本は実際、木村荘八の『銀座界限』という本の附録として、本体のほうにはこの裏通りで起こっている様々なエピソードが盛り込まれているわけです。読み物として読む分にはそれで十分なのですが、それがある通りを通して、通りのこのファサードを通して、それぞれの入口をもって、それぞれの軒先をもって展開している。そこには一つの凝集力といいますか、ある種の凝集性、そして隣接性が表現されている。アーカイブ・モデルといっても、もはやこの『銀座八丁』の表現では、単に「コンテンツ」と「コンテナ」の二極化では説明しきれないような中間領域といいますか、つまり界面、インターフェイスのレベルが仕上がっている

……となると私たちは、コンテナに関するテクノロジカルな話だけをしていても何も始められない、ということになります。

さきほど、三浦さんからの大変興味深いお話の中に、吉祥寺のバウスシアターの名前が挙がっていました。私は吉祥寺に住んでいるのですが、バウスシアターで毎年、「爆音映画祭」という映画祭が行われているのをご存じでしょうか。「爆音映画祭」というのは巨大なスピーカーをこう、スクリーンの横に二台並べて、要するに大音響で映画を観るわけです。デイヴィッド・リンチなんかを観るともう、ジェットコースターみたいになるわけです。もともとスリリングな映画なのに、「爆音」で観るとさらに……というかもう、映画が終わって席を立とうとすると、膝が笑っちゃって立てなかったりして。あのような経験の条件として、コンテンツそのものに対する関心というよりも、コンテンツというものが「界面」によってどう変わってくるのか、つまり一つの映画作品というものを一つのコンテンツとして（あ、一つならば「コンテンツ」ですね）とらえた場合の話ですが……あるコンテンツをどのようにドライブさせるのかという、別の関心、別の力が働いています。ちなみに「爆音映画祭」は単にボリュームを上げるだけではなくて、音響的にいろいろな調整を施しているの、単純に音がデカイというわけではありませんよ、念のため。映画館というコンテナが、コンテンツとしての映画をドライブさせるための条件として、コンテンツを複数の異なるイフェクトの束の一つとしてドライブさせる、その条件として、然るべきインターフェイスを持つこと。そういった意味で、バウスシアターという映画館は「爆音上映」というインターフェイスを持っているわけで、ある種の「アーカイブ」の窓口として機能しているんです。スクリーンだけではなく、スピーカーもまたインターフェイスなんですね。巨大なスピーカーがスクリーンの両脇を固めているので、バウスシアターには映像の界面と音響の界面、二つの界面がコンテンツと観客との間に介在するというか、屹立するというか。音圧が前方からドーンとくるので、音のせいで映像が見えにくくなったり。網膜が振動しているんでしょうね（笑）。私の話は以上です。ありがとうございました。



『アルバム・銀座八丁』、木村荘八 編著『銀座界限』（東峰書房、1954年）の別冊附録。



Ed Ruscha, Every Building on the Sunset Strip (1966).